

岩手医科大学が令和4年度デマンドサイドマネジメント表彰総合システム部門にて「一般財団法人ヒートポンプ・蓄熱センター振興賞」を受賞しました。

2022年6月27日

岩手医科大学



表彰楯を持つ小川理事長（左）と施設課員（右）



附属病院（左）とエネルギーセンター（右）

### 【成果と概要】

岩手医科大学は、附属病院のエネルギーセンターに設置している高効率熱源システム、並びに当該システムの運用について継続的な検証を行い、効率的に運転方法の改善を行っていることなどが電力負荷平準化効果に優れていると評価され、一般財団法人ヒートポンプ・蓄熱センターが主催する令和4年度デマンドサイドマネジメント表彰 総合システム部門において、「一般財団法人ヒートポンプ・蓄熱センター振興賞」を受賞しました。

エネルギーセンターは、災害等により外部からのエネルギー供給が途絶した場合でも、基幹災害拠点病院である附属病院が支障なく医療提供体制を整えることができるよう、燃料種を二重化し冗長化を図ったコージェネレーションシステム等により、1週間程度はエネルギーを自立供給できる機能を備えるだけでなく、そのシステムの排熱を有効利用した熱源機器類の運転、太陽光発電設備や地中熱利用設備といった再生可能エネルギーの積極的な活用、外気温度の低い地域特性を生かしたフリークーリングの実施などにより、電力負荷の平準化、省エネルギー化も実現しています。

### 【システム開発の目的、背景】

東日本大震災では、岩手県も長期にわたる停電と重油供給停止を経験しました。この間、大学施設の機能を制限し、残った重油で旧附属病院（現内丸メディカルセンター）の機能維持に注力しましたが、被災患者の全てを受け入れることが難しい状況を経験しました。このことから、新附属病院のエネルギーセンターでは、高度医療拠点病院としての継続的な医療体制を維持できる、電力の完全自立化とエネルギーの多元化（電気・中圧ガス・A 重油）が命題となりました。通常時の電力負荷平準化や省エネルギー性だけでなく、災害等によりエネルギー供給が寸断されても、太陽光発電および蓄電池、コージェネレーション、地中熱等の自然エネルギーを有効に活用して自立供給が可能となる分散型エネルギーシステムを構築しました。

### 【お問い合わせ先】

岩手医科大学

法人事務部 施設課 岩崎 和貴、廣瀬 匡司

電話番号：019-651-5111（内線 6241）

Eメール：kazutaka.iwasaki@j.iwate-med.ac.jp